

直球&

曲球



春風亭一之輔

「去年よりちよっとでも良い年になりますように」と年賀状に書いてみた。ほんの「ちよっと」でいい。

元日。毎年、師匠の家に集まり年始の挨拶。おせちやお雑煮をつまんで乾杯するのだが、今年は一門で相談の上「無し」になった。ぽっかり穴があいたみたい。

最初の高座は上野・鈴木演芸場。上野駅不忍改札を出るとすぐアメ横だ。通りが端まで見通せるくらいにスカスカだった。これは歩きやすい。まあ「ちよっと」いいことだと思おうかな。

高座に上がるとお客さんは半分くらいの入り。まさか元日の寄席に空席がある日がやってくると思わなかった。数は少なくともよく笑ってくれるお客さんだったのが救い。また「ちよっと」いいこと見つけた。

寄席の掛け持ちで浅草へ移動。正月はいつも行列をなす飲食店も今年はテークアウトの販売をしている。着物姿の人も少ない。浅草演芸ホールは50%の座席制限を続けているが、やはり50%に満たない入りだ。なぜ

しゅんぶつてい・いちのすけ 落語

家。昭和53年、千葉県生まれ。日大芸術学部卒。平成13年、春風亭一朝入門して朝左久、二つ目昇進時に一之輔を名乗る。24年、21人抜きで真打ちに抜擢。古典落語の滑稽噺を中心に、人情噺、新作など持ちネタは200以上。

「ちよっと」でもよい年に

か20〜30代の若い人が目立つ。ご年配は外出を控えているのだろうか。帰りがけに若い女性に「一之輔さんのYouTube配信で落語を知って今日初めて生で見ました！」とマスク越しに小声を掛けられた。お氣遣い申し訳ない。コロナ禍でお客さんの裾野が広がった。これは「とても」いいことだな。

帰宅するとメールが1件。このところの感染者急増のために今年8月の地方の独演会が中止になる、という主催者からのメール。何年越しで企画された「こんな事態でも座席50%の150名上限でなんとか開催しよう」と決まっていた小規模な会だ。せっかくの「いいこと貯金」が吹っ飛んだ。

庶民がささやかな娯楽も我慢してつましく暮らすこの年末年始に、ステーキ会食したり、忘年会したり、自粛を求めながら自らは初詣するって言ったり、感謝の手紙書けて子供たちを勧めたり、五輪はいまだに開催予定だったり…。

去年よりは悪くなりませんように。

切に願う、お正月。